



(上) おほばしょうま (下左) いかりさう
 (下右) とりあいしょうま (第二圖)
 (岡田寫真)

來上ツテ居ルガ殘リノニツハ非相稱ガ可ナリ著シイ、ソシテソノニツヲ合セルト丁度隙間ナク並ブコトガ出來
 ルヨウニナツテキル
 【附圖說明】(1) *Begonia maculata* RADDI. ハ葉ノ並ビ具合、(11) 上、おほばしょうま、下右、とりあいしょ
 うま、下左、いかりさう

○箱入娘ノ正體見タリ夏祭り

理學士 本田 正次

箱入娘ノ正體見タリ夏祭り

ハレル、次ニ複葉ヲナシテキル小葉片ニハ

非相稱ノモノガ頗ル多イ複葉全體トシテ見
 レバ左右相稱デアルガ小葉片一ツ一ツハ非

相稱的ノ形ヲ現ハシテキルモノハザラニア
 ルコレモノノ原因ハサテオイテ兎モ角モ日
 光ヲ無駄ニセヌ爲メニオ互ニ重ナリ合ハヌ

ヨウシカモ出來ルダケ推シ合ツテ並バウト
 云フ爲メニハタシカニ都合ガイ、ニ相違ナ
 イ羊齒ノ葉ナド見レバイクラモ例ノアルコ

トダガ此處ニハ手近ノ標本カラニツ三ツ撰
 ンデ寫シタモノヲ掲ゲル、之ヲ見ルト三出

葉ノ眞中ノ小葉片ハ行儀ヨク左右相稱ニ出

昭和二年六月二十日發行某新聞ノ科學小話ト云フ欄ニ「果實ノ保護網」ト題シテ次ノ様ナ記事ガ出テ居タ
 「アルケケンヂ」と呼ばれて居る果實が、アフリカの佛領植民地に産するが、不思議なことにはその赤い食用に
 なる果實が、生長に伴ひその外側が全部植物性の網で包まれて虫害から充分なる保護を受けて居ることであ
 る。そこで一名を Love in a cage — 意譯して箱入娘 —ともいはれてゐる。」

諸君何ント珍ラシイ不思議ナ果實デハアリマセンカ、コレヲ一ツあふりカカラ日本ニ輸入シテ「あふりか原產
 珍果箱入娘」ト書イタ紙片デモ水菓子屋ノ店頭ニブラサゲテ置イタラソコラ邊リノ好事家連中我レモ我レモト
 列ヲ作ツテ押シカケソレコソ羽ガ生エテ賣レル事請合ヒ
 ヨンナ餘計ナオ節介ヲシテ居ルウチニ間モナク世ノ中ハ八月ノ盛夏トナッタ江戸ノ名残リヲ留ムル夏祭リノ或
 ル夜ノコト狭イ賑カナ通リヲ人ニ採マレテ漫步シナガラ兩側ニ並ンダ露店ヲ素見ストほほづきノ果實ノ赤ク
 熟シタノガ出シテアツテ私ハ其ノ色ニ魅セラレテツイニツ三ツヲ買ツテ家ニ歸ッタ、ソシテ座右ニアツタ牧野
 サンノ日本植物圖鑑ヲ取り上ゲ其ノ一七八頁ほほづきノ個所ヲ開イテ見ルト *Physalis Alkekengi* L. ト云フ學
 名ノ下ニ精確ナ記事ガ出テ居ルガ其ノ一句ニ「花後萼增大シテ肉質ノ漿果ヲ包ミ、漿果ト共ニ熟シテ赤色トナ
 ル」トアル、ハハアコレダナアト思ヒナガラ今買ツテ來タバカリノほほづきノ果實ヲ今更ノ様ニ感心シテ玩ブ
 事稍シバシ、斯ウシテ弄ツテ居ルウチニ不圖頭ニ浮ンダノガ先日讀ンダ新聞ノ記事、第一「アルケケンヂ」ト
 云フ果實ノ名ガほほづきノ種名 *Alkekengi* ト一致スル「果實ノ外側ガ全部植物性ノ網デ包マレ」ルト云フ事ハ
 此ノ夢ノ事デハアルマイカト思ヒ合ハサレル、又ほほづきノ果實ガ食ベラレル事モ知ラレテ居ル、斯様ニ段々
 疑ヲ挾ンデ來ルト所謂珍果箱入娘ナルモノガほほづきダト云フコトニナル、然シコレハ無論單ニ私ダケノ解釋
 デアツテ該記事ニハほほづきノほノ字モ書イテナイトコロヲ見ルト或ハサウデ無イカモ知レナイガ若シ萬一ほ
 ほづきノ事ヲ書イタモノダトスルト折角綺麗ニオ化粧シテツーノト澄シタ箱入娘あるけんぢ壌ガ臺ナシニナ

ルノデ其ノ點ハ同壤ニ對シテ甚ダ御氣ノ毒ニ感ジテ居ル次第アル、夏祭リノ夜ニ箱入娘ノ正體ヲ見タツモリノ淡イ誇リノ心ヲ貴イ誌面ヲ藉リテ正直ニ書イタマデデ私ノ僻目デナカッタラ幸デス
 因ニ記ス中井博士最近ノ研究ニヨレバ我ガ國デ見ラレルほほづきノ學名ハ *Physalis Alkekengi LINNAEUS.* ハ實ハ歐洲ノ原產デ莖ハ稍々蔓性ニ傾テ今迄ソノ學名トシテ知ラレテ居タ *Physalis Alkekengi LINNAEUS.* ハ實ハ歐洲ノ原產デ莖ハ稍々蔓性ニ傾キ葉ハ小サク光澤強ク果實ハほほづきニ比シテ倍以上モ小サイソウデアル、故ニ嚴密ナ解釋デハ「箱入娘」ヲ直チニ日本ノほほづきトスルハ穩當デナイカモシレヌガ、ソコハ何分鷹揚ニ見テ戴キ度イト云爾

○輕業ヲスル植物

緒 方 正 資

輕業ハ人間ノ曲藝トノミ思フベカラズ植物ニモ輕業ヲスルモノガアル即チ其名ヲかるわざねぎマタ（やぐらねぎ、さんがいねぎ、たらねぎ）ト云フ、古クヨリ知ラレタモノデ『草木圖說』ヤ『本草圖譜』ナドニ立派ナ圖モアリ夫レカラ轉ジテフランシェ、サヴハチエ兩氏ノ『日本植物志』ニモ其名ガ傳ヘラレ最近マタ HANS MÖLTSCH ニヨリ日本植物生理學デ世ニ紹介サレテ居ル學名ハ *Allium fistulosum L. var. viviparum MAKINO.* デ *viviparum* ハ「種子ノ代リニ幼植物ヲ胎生スル」ト云フ意デアルガ此ねぎハ其學名ノ通リマタ此處ニ掲ゲタ寫眞ノ如ク葉ノ頂部ニ數個ノ幼植物ヲ簇生シ其ノ尖端ニ花ヲ着ケテ輕業ねぎノ名ヲ辱シメナイ、コノ葱ニ就テハ蘭山小野識博大人ハ『本草綱目啓蒙』卷ノ二十二葱ノ條下ニ「樓葱ハヲランダネギ一名ヤグラネギ、マンネンネギ、サンガイネギ、奥州南部ニ多シ何レノ地ニ移シ栽ルモ繁茂シ易シ葉ハネギヨリ肥大ナリ當中ノ葉梢ニ短小葉多ク聚リ生ジ又葉上ニモ短葉生ジ三重ニモ七重ニモナル其短葉ノ本ニ根アリテ鬚ヲ生ズ地ニ移シテ生ジ易シ又根旁ニモ嫩苗ヲ多ク生ジ分栽スベシ一名樓子葱（救荒本草）蟠葱（本經臺）葱（物類相感志）」ト記シテ居ル蘭山先生ノ記述ハ